

アクションプラン取組一覧表

大作戦1 広報プロモーション大作戦

作戦1 We Love とよかわ作戦

番号	取組名	取組概要	主管組織	当初計画(上段)				平成24年度実施内容(上段)
				平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
				進捗状況(下段)				自己評価・課題(下段)
平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度					
1	トップセールス	情報発信力のある市長等があらゆる機会を捉えて、豊川市の魅力を市内外へ売り込む。	企画政策課	継続	継続	継続	継続	シティセールスやトップセールスの重要性を、広報・シティセールス推進委員会で周知し機会の創出を促した。 計画どおり実施できたと評価する。
2	ふるさと観光大使の任命	観光協会が平成21年度からZIP-FMの小林琢一郎氏を観光大使に起用しており、豊川市の魅力を発信してもらう。	商工観光課	継続	継続	継続	継続	ZIP-FMミュージックナビゲーターの小林琢一郎氏を観光大使として委嘱し、豊川市の魅力を広く発信した。 新たな観光大使を委嘱するため、観光協会と連携し豊川市出身の著名人と交渉を行った。 計画どおり実施できたと評価する。 知名度がある人物や発信力のある人物など、ふるさと観光大使を増やす必要がある。
3	マスコットキャラクターの活用	平成24年9月にいなりにんを豊川市宣伝部長に任命した。市の行事に参加したり、チラシなどにイラストを掲載したりして、いなりにんの知名度を活かした情報発信を行う。	企画政策課	実施(取組開始)	継続	継続	継続	いなりにんを豊川市宣伝部長に就任してもらい、行政面で活用しやすい環境を整えた。 いなりにんを活用するための基準や許可制度を、観光協会とともにつづけた。 計画どおり実施できたと評価する。 行政の活用方法について、観光協会のPR戦略と整合を図る必要がある。
4	県外でのPR強化	トップセールス、ホームページ、新聞広告、雑誌、ラジオ、テレビ、特産品販売などにより、県外のターゲットを意図したプロモーション活動を増加充実させる。	企画政策課、商工観光課	継続	継続	継続	継続	市ホームページ内に宣伝部長いなりにんのページを作るなど、先導的な情報発信に努めた。 観光協会と連携して東京で物産展を開くなど県外での観光PRを行った。 計画どおり実施できたと評価する。 県内や近隣地域から集客するための活動が多いため、県外のターゲットを意図した活動を増加させていく必要がある。
5	市制施行70周年記念事業の開催	平成25年6月に70周年を迎える豊川市の一層の発展を期する機会として、「とよかわ 人の輪 地域の輪」をキャッチフレーズに各種事業を盛り上げる。	企画政策課	実施(取組開始)	継続	完了	完了	キャッチフレーズの市民投票などにより、70周年の機運を盛り上げた。 市民会議を開催し、記念事業を決定した。 計画どおり実施できたと評価する。 協賛団体にシティセールスを理解していただき、市を盛り上げるイベントにしていきたいことが重要である。
6	プロモーションビデオの活用	豊川市の魅力をPRするためのビデオ映像を活用し、多くの方に印象に残る情報発信を行う。	秘書課、企画政策課、中央図書館	継続	継続	継続	継続	市制施行70周年記念式典の上映に向けて、いなりにんが市内の名所旧跡や自然などを紹介するプロモーションビデオの作成準備を行った。 地域情報ライブラリーにより、市内の観光地やイベントの映像を作成し上映した。 計画どおり実施できたと評価する。 プロモーションビデオについてPRする必要がある。
7	特産品ギフトカタログの作成	地域の特産品を選定しギフトカタログとしてまとめ、土産や贈答などのニーズを掘り起こしたりネット販売に対応したりして、特産品のブランド力を高める。	農務課、商工観光課	検討・調整・準備	検討・調整・準備	検討・調整・準備	実施(取組開始)	市内の農業関係団体で組織する農政企画協議会で新商品の開発やブランド化などについて検討した。 計画どおり実施できたと評価する。 特産品を選定しギフトカタログを作成するためには、関係者との調整に時間や費用がかかる。 プリアで行っているネット販売等との連携も含め、8-11グループ後のまちづくりとして検討を行う。
8	旅行会社と連携してとよかわ堪能ツアーを実施	東三河広域観光協議会により豊川市を行程に組み込んだツアーを提供し、豊川市を楽しんでもらう。	商工観光課	継続	継続	継続	継続	東三河広域観光協議会により豊川市を組み込んだツアーを実施した。 観光協会が行う旅行会社との商談会において、市観光協会と連携しPRを行った。 計画どおり実施できたと評価する。 ツアーが魅力ある内容にならないと、旅行会社との連携は難しい。

作戦2 わかりやすい情報提供作戦

番号	取組名	取組概要	主管組織	当初計画(上段)				平成24年度実施内容(上段)
				平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
				進捗状況(下段)				自己評価・課題(下段)
平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度					
1	カラー、デザインの統一	効果的な情報発信のため、統一したカラーやデザインを積極的に用いる。 豊川市のイメージカラー 目を引くデザイン 効果的なPR手法(名刺、封筒、FAX用紙、メールサイン)	秘書課、企画政策課	実施(取組開始)	継続	継続	継続	インタビューボードを作成するとともに、デザインをアクションプランの表紙に採用するなど、効果的なPRを行った。 電子メールのサインにおいて、豊川市のPR等を行うよう全庁的に呼びかけた。 計画どおり実施できたと評価する。 シティセールスのキャッチフレーズが活用されるよう、職員に浸透させる必要がある。 効果的なカラーやデザインについて、さらなる検討と調整が必要である。
2	市役所全職員の広報パーソナリゼーション	広報の必要性や重要性を理解して情報発信できる職員を育成する。 意識改革研修 危機管理研修 豊川市検定(職員の必須知識) 広報戦略/プレゼンテーション研修	秘書課、人事課	検討・調整・準備	実施(取組開始)	継続	継続	広報・シティセールス推進委員会で、情報発信をテーマに中日新聞豊橋総局長を招いて講演をしていただいた。 経営管理セミナーにて、広報戦略をテーマに「自治体ホームページの課題と今後のあり方」と題した講演会を実施した。 「新・豊川市人材育成基本方針(平成25年3月策定)」にて、求められる職員像を「3C」に再編して「City Sales Person(シティセールスパースン)」を位置付けた。 計画を前倒しして実施できたと評価する。 広報・シティセールス推進員以外にも意識改革を広げていく必要がある。 豊川市検定を実施するためには、検定用の問題を作成するなど、関係各課の調整が必要である。
3	市ホームページの充実	アクセシビリティに配慮した分かりやすいホームページをつくり、行政情報の見える化を推進する。	秘書課	実施(取組開始)	継続	継続	継続	市ホームページをリニューアルし、アクセシビリティの充実、SNSの導入、シティセールス関係のカテゴリの設置などを行った。 計画どおり実施できたと評価する。 更なる情報の充実やシティセールスにつながる情報の更新が必要である。
4	広報部門の機能強化	広報担当の知識、技術、情報コーディネート能力向上を図り、効果的な情報発信を行う。	秘書課	検討・調整・準備	検討・調整・準備	検討・調整・準備	検討・調整・準備	広報戦略プランの策定やバリエーションの改訂を行い、広報機能強化に向けた準備を進めた。 計画どおり実施できたと評価する。 広報戦略プランを推進するためには、広報担当者のコーディネート能力などの向上を図る必要がある。
5	多様な広報媒体の活用	現在活用している広報媒体の効率的な運用とともに、新たな広報媒体の導入について研究し、情報を受け取る方を意識した情報発信を行う。	秘書課	検討・調整・準備	実施(取組開始)	継続	継続	情報を収集し検討を行った。 計画どおり実施できたと評価する。 現在、活用している広報媒体を精査するとともに、市民のニーズを把握する必要がある。
6	歴史、文化、自然などを活かした観光案内表示	サイン整備計画に基づき、市内主要駅の観光案内看板や文化財説明看板などを整備し、来訪者の利便性を高める。	商工観光課、生涯学習課	継続	継続	継続	完了	豊川市サイン整備計画に基づき、駅東駐車場や豊川駅などの案内看板を改修した。 西明寺などの説明板と名鉄国府駅から三河国分尼寺跡史跡公園への歩行者用案内標柱を設置した。 計画どおり実施できたと評価する。
7	市民公開型GISの活用	ハザードマップや工事箇所など市民にとって有効な地図情報をインターネットにより広く配信する。	情報システム課	検討・調整・準備	実施(取組開始)	継続	継続	市が保有する地図情報を平成25年4月からインターネットで配信するため、システムを構築した。 計画どおり実施できたと評価する。 市民にとって有益な地図情報について、さらに追加して配信する必要がある。 市役所内外に対して広くPRし、活用を推進する必要がある。

大作戦2 わがまち大作戦

作戦1 わがまち学ぼう作戦

番号	取組名	取組概要	主管組織	当初計画(上段)				平成24年度実施内容(上段)
				平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
				進捗状況(下段)				自己評価・課題(下段)
平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度					
1	シティセールスウェブサイトの開設	ホームページにおいてシティセールス関係のページを開設・充実させ、旬な情報を多くの方に届ける。	企画政策課	実施(取組開始)	継続	継続	継続	市ホームページ内に宣伝部長いなりにんのページを作るなど、先導的な情報発信に努めた。 計画どおり実施できたと評価する。 市ホームページでは統一の見出しとなるなど制約があるため、一般的なホームページと比較すると発信力が弱い。
2	豊川地域ポータルサイト「みてみん!」の活用	イベント情報や旬な情報をお知らせしたり、ユーザーにとって便利なコンテンツを用意したりして、魅力的なポータルサイトにする。	情報システム課、子ども課、教育委員会庶務課	継続	継続	継続	継続	情報が得やすくなるよう、トップページを見直した。 イベントの事前情報や当日の様子をサイトに掲載した。 保育園のサイトで、保育園の紹介、園日記、行事予定、給食レシピなどを掲載し保育園の様子が伝わる情報発信を行った。 子育てのサイトを開設し、子育てに関する様々な情報を配信した。 小中学校のサイトで、運動会などのイベント予定や学校よりなどを掲載した。また、メール配信機能を活用し、不審者情報、学校行事の中止連絡、学級閉鎖などの情報を配信した。 計画どおり実施できたと評価する。 行政が持つ情報をさらに掲載できるよう、職員への働きかけが必要である。 保育園や学校によって情報量のばらつきが見られるため、情報を積極的に掲載してもらえようとする必要がある。
3	シティセールス認定事業の公募	豊川市のイメージアップや知名度の向上につながる事業を広く取り組んでもらうために公募する。	企画政策課	検討・調整・準備	検討・調整・準備	検討・調整・準備	検討・調整・準備	制度について情報を収集した。 計画どおり実施できたと評価する。 推進するためには、担当部署の設置と人員確保が不可欠である。また、財源の確保と認定組織の設置が必要である。
4	「さくら」をキーワードにした市のPR	「さくら」にまつわる施設やイベントを活かして、わがまち豊川市のイメージを高める。 桜トンネルや御津山などの桜まつり 桜並木の育成保存 桜のある公園整備 桜をテーマとした展覧会 桜ヶ丘ミュージアム周辺の薄墨桜	商工観光課、道路維持課、公園緑地課、文化振興課	継続	継続	継続	継続	桜まつりを観光協会と連携して開催した。 桜トンネル、佐奈川、香羽川、御津山、宝円寺、穴蔵の開花状況を、ホームページに掲載し周知を行った。 桜トンネルと市道公園線において、計画的に桜の老木の植替えを実施した。 市内の公園に掲載されている桜の種類や開花時期について調査を行った。 地域文化広場の桜の開花にあわせ、桜をテーマとする絵画作品を集めて展覧会を開催した。 計画どおり実施できたと評価する。 開花時期は毎年違いがあるが、効果的なPRを行うためにはタイミングが重要である。
5	魅力再発見イベント	豊川市の魅力を多くの方に改めて知ってもらうためのイベントを開く。 とよかわ探検隊 メッセージ付きフォトコンクール 観光ルートウォーキング 豊川市の知り決定 ふるさと再発見講座	秘書課、商工観光課、生涯学習課	継続	継続	継続	継続	「いいトコ発見」とよかわ、をテーマに、メッセージ付フォトコンクールを実施した。 市内の施設を巡る「とよかわ探検隊」を5回実施した。 平成22年度に策定した観光ルートに基づき、豊川稲荷などの神社仏閣をまわるウォーキングイベントを開催した。 豊川もの知り決定については、実施に向けて情報収集等を行った。 地域の歴史や文化などについて掘り起こして紹介する「ふるさと再発見講座」を、三河天平の里資料館で4回開催した。 計画どおり実施できたと評価する。 メッセージ付フォトコンクールは、応募者が固定化しつつあるため、応募拡大を図る工夫が必要である。 とよかわ探検隊は、テーマや紹介する施設等の選定が難しい。 観光ルートウォーキングは、観光客の嗜好が変化に合わせてルート見直しなどを適宜行い、魅力ある内容で開催することが重要である。
6	特色あるプラネタリウムの活用	全国的にも珍しいレーザーを使ったオーロラの再現や宇宙の知識を深めるプラネタリウム番組により、わがまちの魅力を際立たせていく。	中央図書館	継続	継続	継続	継続	オーロラを再現できる機器を活かしてプラネタリウム番組を上映した。 計画どおり実施できたと評価する。 機器が老朽化している。

アクションプラン取組一覧表

作戦2 わがまち輪となれ作戦

番号	取組名	取組概要	主管組織	当初計画(上段)				平成24年度実施内容(上段)
				平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
				進捗状況(下段)				
平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	自己評価・課題(下段)				
1	とよかわファンクラブの創設	豊川市のことに関心を持ち応援していただける方が集う場として組織し、自らまちの魅力を発信し、愛着や誇りを高められるようにする。	企画政策課	検討・調整・準備	検討・調整・準備	検討・調整・準備	検討・調整・準備	制度について情報を収集した。
				検討・調整・準備				計画どおり実施できたと評価する。推進するためには、担当部署の設置と人員確保が不可欠である。
2	市民提供の写真や動画の配信	市民参加型の情報発信を検討し、写真や動画をホームページに掲載していく。	秘書課	検討・調整・準備	検討・調整・準備	実施(取組開始)	継続	情報を収集し検討を行った。
				検討・調整・準備				計画どおり実施できたと評価する。配信する媒体や活用方法などについて、さらに検討を重ねる必要がある。
3	おもてなし意識の醸成	豊川市に住んでいる人や訪れた人が感動するおもてなしの輪を広げます。観光まちづくりゼミナール・観光ボランティアガイド	商工観光課	継続	継続	継続	継続	B-1グランプリのボランティアを育成するため、観光まちづくりゼミナールを開催した。観光協会が、豊川稲荷や御油の松並木資料館でボランティアガイドを配置し、観光案内を行った。
				継続				計画どおり実施できたと評価する。観光まちづくりゼミナールは、B-1グランプリ後の継続が重要である。ボランティアガイドは、他の観光名所の案内もできるような人材育成が必要である。
4	e-モニター制度の実施	市民の意向を迅速に把握するためのコミュニケーションツールとして電子メールなどを利用し、市政に関するアンケートを実施する。	秘書課	実施(取組開始)	継続	継続	継続	インターネットを利用したモニター制度「とよかわデジモニ」を立ち上げ、6回のアンケートを100人のモニターに対して実施した。
				実施(取組開始)				計画どおり実施できたと評価する。アンケートのテーマ設定が難しく、結果を活用していることが重要である。
5	観光の広域連携	東三河地域で連携することで、豊川市の魅力のみならず、広域的な魅力と合わせて発信し、県内外の多くの方の関心をひきつける。	企画政策課、商工観光課	継続	継続	継続	継続	東三河振興ビジョンの策定において、広域的な観光連携を検討した。東三河広域観光協議会と連携して東三河の観光案内冊子「ほの国とておき探訪」を発行し、イベントでのPR配布を実施した。
				継続				計画どおり実施できたと評価する。県外への情報発信や誘客活動は豊川市単独では難しいため、広域連携での取組も継続する必要がある。
6	シティセールス戦略プランの周知	平成24年8月に策定した豊川市シティセールス戦略プランに基づき(取組)みが、市民、NPO、地域、企業、大学、行政などに浸透するように基本的な考え方を周知し共有していく。	企画政策課	実施(取組開始)	継続	継続	継続	「まずは市役所から」の考えのもと、広報・シティセールス推進委員会などで職員への周知を図った。
				実施(取組開始)				計画どおり実施できたと評価する。

大作戦3 とよかわ魅力アップ大作戦

文化・歴史のバリューアップ

番号	取組名	取組概要	主管組織	当初計画(上段)				平成24年度実施内容(上段)
				平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
				進捗状況(下段)				
平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	自己評価・課題(下段)				
1	国分寺、国分尼寺の活用	重要な文化財である国分寺や国分尼寺をわがまちの誇るべき資源として活用していく。国分寺跡史跡公園ボランティアガイド・天平ロマンの夕べ	生涯学習課	継続	継続	継続	継続	国分寺や国分尼寺などについて案内できるボランティアガイドを養成するための講座を開催した。三河国分寺跡史跡公園に多くの方が訪れて知っていただくため、「天平ロマンの夕べ」を開催した。
				継続				計画どおり実施できたと評価する。
2	歴史的価値のある神社仏閣の物語性を加えたPR	歴史的価値のある神社仏閣の魅力を際立たせて効果的にPRする。豊川市推奨観光ルートの設定・パワースポットの紹介・「新版豊川の歴史散歩」の刊行	商工観光課、生涯学習課	実施(取組開始)	継続	継続	継続	豊川市推奨観光ルートに設定するため、情報を収集した。東三河広域観光協議会により、豊川市を含む東三河地域のパワースポットを紹介した。市内の歴史探訪の手引きとなる「新版豊川の歴史散歩」を刊行するため、編集委員会を組織し内容を検討した。
				実施(取組開始)				計画どおり実施できたと評価する。神社仏閣と絡めたパワースポットの開拓など歴史的・地域資源の掘り起こしが必要である。
3	平和公園の整備	戦争遺跡を活用した公園を整備し、わがまちの歴史を子孫に語り継ぐとともに、平和都市宣言の主旨に沿って平和を愛する心を育てる。	公園緑地課、生涯学習課	検討・調整・準備	検討・調整・準備	検討・調整・準備	実施(取組開始)	平和公園実現に向けて、課題等について検討した。
				検討・調整・準備				計画どおり実施できたと評価する。具体的な整備方針やスケジュールなどについて、関係者との調整が必要になる。
4	地域資源をつなぐ街道紹介	街道を切り口として、地域の魅力を組み合わせることで効果的にPRする。観光ルートウォーキング・街道関係のパンフレット作成・文化財めぐり	商工観光課、生涯学習課	継続	継続	継続	継続	観光ルートPR事業として、平成22年度に策定した観光ルートに基づき、ウォーキングイベントを開催した。宿場歩きを楽しんでもらう「トコロ東海道、事業のひととして、赤坂宿と御油宿に立ち寄るウォーキングイベント」を開催した。『新版豊川の歴史散歩』の編集において、東海道沿いの歴史的・地域資源を盛り込むこととした。
				継続				計画どおり実施できたと評価する。観光ルートウォーキングは、観光客の嗜好が変化に合わせてルート見直しなどを適宜行い、魅力ある内容で開催することが重要である。

スポーツのパワーアップ

番号	取組名	取組概要	主管組織	当初計画(上段)				平成24年度実施内容(上段)
				平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
				進捗状況(下段)				
平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	自己評価・課題(下段)				
1	高校駅伝の支援	全国高等学校駅伝競走大会に出場している高校を支援することにより、「駅伝のまち豊川」を全国に発信する。	スポーツ課	継続	継続	継続	継続	全国大会等への出場や過去の成績を踏まえ、豊川高等学校駅伝部と豊川工業高等学校陸上競技部に対し激励金を支給した。
				継続				計画どおり実施できたと評価する。
2	プロバスケットボールチームとのコラボレーション	bリーグに所属する浜松・東三河フェニックスと連携し、「するスポーツ」・「観るスポーツ」・「支えるスポーツ」を推進する。バスケットボール教室・小中学生への観戦チケット配布・フラッグポンサー	スポーツ課	継続	継続	継続	継続	プロバスケットボールチームの浜松・東三河フェニックスのフラッグポンサーとなり、中学生バスケットボール教室や小学生交流会を開催したり、小中学生対象に観戦チケットを配布したりした。
				継続				計画どおり実施できたと評価する。中学生バスケットボール教室は、バスケットボール部を対象にしているため希望校に偏りがある。小学生交流会は、希望校が多いため開催できない小学校がある。
3	パブリックビューイングの開設	豊川市に縁のある選手やチームが世界規模・全国規模の大会に出場する際に、大型映像投影装置を使って市民が一丸となって応援する。	スポーツ課、中央図書館	継続	継続	継続	継続	全国高等学校駅伝競走大会に出場する豊川高等学校駅伝部を応援するため、中央図書館内の大型映像投影装置を使ってパブリックビューイングを開催した。
				継続				計画どおり実施できたと評価する。パブリックビューイングへの市民の参加が少ない。また、内容が全国高等学校駅伝競走大会のみにとどまっている。
4	各種スポーツ大会の誘致開催	陸上競技場をはじめ市内体育施設を活かし、各種スポーツ大会の開催を誘致することで元気の豊川市を発信していく。	スポーツ課	検討・調整・準備	検討・調整・準備	実施(取組開始)	継続	計画を前倒しして実施できたと評価する。陸上競技場においては、駅伝大会等の誘致開催に向けて豊川陸上競技協会や東三河陸上競技協会等の関係団体と調整しているが課題が多い。他の市内体育施設においては、体育協会等の既存の大会やイベントが多いため、これ以上新規の大会等を開催誘致することが難しい状態である。
				実施(取組開始)				計画を前倒しして実施できたと評価する。陸上競技場においては、駅伝大会等の誘致開催に向けて豊川陸上競技協会や東三河陸上競技協会等の関係団体と調整しているが課題が多い。
5	スポーツ公園の整備	スポーツをとおして多くの方が交流できる拠点として、魅力あるスポーツ公園を整備する。	公園緑地課	継続	継続	継続	継続	一部供用開始し野球場をオープンした。用地買収を進め、西路広場や藤森等の整備工事を行った。
				継続				計画どおり実施できたと評価する。
6	陸上競技場(第3種公認競技場)の有効活用	レベルの高い競技にも対応できるよう改修した陸上競技場が、多くの方に使ってもらえるように施設運営を行う。	スポーツ課	検討・調整・準備	実施(取組開始)	継続	継続	リニューアルオープンした陸上競技場において、リレーマラソン大会や東海学生陸上競技秋季選手権大会を新たに誘致し開催した。
				実施(取組開始)				計画を前倒しして実施できたと評価する。陸上競技場においては、駅伝大会等の誘致開催に向けて豊川陸上競技協会や東三河陸上競技協会等の関係団体と調整しているが課題が多い。
7	総合型地域スポーツクラブの設立育成	子どもから高齢者まで幅広い年齢層の市民が気軽にスポーツに親しむことのできる総合型地域スポーツクラブを設立育成する。	スポーツ課	継続	継続	継続	継続	「音羽地区のクラブに続いて一宮地区のクラブ」わすば一宮、を設立するため、スポーツ推進委員会を中心に設立準備委員会や検討会を組織し準備を行った。
				継続				計画どおり実施できたと評価する。クラブ設立後は、自主運営できるように支援や育成を行うことが重要である。また、「わすば一宮」に続くクラブ設立の準備を進める必要がある。

祭り・イベントのショウアップ

番号	取組名	取組概要	主管組織	当初計画(上段)				平成24年度実施内容(上段)
				平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
				進捗状況(下段)				
平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	自己評価・課題(下段)				
1	B-1グランプリの開催	ご当地グルメでまちおこし活動をしている団体が全国から集まるイベントを開催することで、豊川市に人、モノ、お金、情報を呼び込み地域を活性化させる。	商工観光課	検討・調整・準備	実施(取組開始)	完了	完了	B-1グランプリin豊川実行委員会を設立し、会場や運営方法の検討などを進めた。また、開催機運を高めるため、プレイベントとして「あいちを食べておいでん祭」や公募イベントなどを開催した。
				検討・調整・準備				計画どおり実施できたと評価する。B-1グランプリの開催に向けて、関係機関等とのさらなる調整が必要になる。
2	市民まつり(おいでん祭、手筒まつり)の充実	三河弁の「おいでん」を名称に取り入れた親しみやすい「おいでん祭」や、東三河地方に古くから伝わる手筒煙火による「手筒まつり」を開催し、充実させていくことでわがまちの魅力を多くの方に発信していく。	商工観光課	継続	継続	継続	継続	ホームページ、新聞、ラジオ、雑誌などにより積極的に市民まつりのPRをした。
				継続				計画どおり実施できたと評価する。陸上競技場の改修により手筒まつりの会場が変更になったため、安全対策などの費用が多額になった。
3	いなり楽市の継続的支援	豊川稲荷周辺に賑わいをもたらすイベントを商店街が自立的に開催できるように継続的に支援する。	都市計画課	継続	継続	継続	継続	中心市街地の活性化事業として、いなり楽市への支援を行った。
				継続				計画どおり実施できたと評価する。商店街の主催イベントとして自立発展させるため、効果的な支援を行う必要がある。
4	地域の祭りの情報発信	祭りが豊富なわがまちの特長を活かすため、開催情報をタイムリーに発信し、来訪者数の増加につなげる。	商工観光課	継続	継続	継続	継続	観光協会と連携してホームページやガイドマップなどにより、開催情報をタイムリーに紹介した。
				継続				計画どおり実施できたと評価する。
5	地元製造企業と連携したイベント開催	地元製造企業と連携し、地域の強みであるものづくり産業を身近に感じられるイベントを開く。工場見学・ものづくり体験	企業立地推進課、商工観光課	検討・調整・準備	検討・調整・準備	実施(取組開始)	継続	企業との新たな連携について情報を収集し検討した。B-1グランプリ関連事業として、新東工業による鈍物づくりの体験イベントを開催した。観光協会のホームページで、平松食品の工場見学を紹介した。
				実施(取組開始)				計画を前倒しして実施できたと評価する。工場見学は、セキュリティを確保し受入体制を整える必要があるため、調整が難しい。
6	ミュージアムを核とした文化のまちづくり	開かれたミュージアムを目指し市民の文化の核施設となることで、地域の文化度を向上させる。ミュージアムなどの施設と連携した収蔵品展示・ミュージアムの改修工事・質の高い公演や展覧会を開催	都市計画課、文化振興課	検討・調整・準備	検討・調整・準備	実施(取組開始)	継続	ミュージアムの事業を他施設で開催することについて検討した。市民の文化芸術の拠点であるミュージアムを改修するため、実施設計などの準備を進めた。
				検討・調整・準備				計画どおり実施できたと評価する。他施設での事業は、展示スケジュールの調整やセキュリティの確保などの課題が想定される。

アクションプラン取組一覧表

環境・自然のウェイクアップ

番号	取組名	取組概要	主管組織	当初計画(上段)				平成24年度実施内容(上段)
				平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
				進捗状況(下段)				
平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	自己評価・課題(下段)				
1	市民協働による自然環境の保全	企業や団体等と連携し協働の仕組みづくりを検討するとともに、環境保全に関わる人材育成や団体支援を行い、豊川市の豊かな自然を守る。 ・ネットワークの構築 ・環境学習講座 ・里山保全リーダー養成講座	市民協働国際課、環境課	継続	継続	継続	継続	・「とよかわ市民協働基本方針」を策定し、各種団体のネットワークを広げる交流会などを位置づけて、情報共有を推進することとした。 ・各種団体の環境保全活動に対し支援を行った。 ・環境学習講座や里山保全リーダー養成講座を開催し、豊川市の自然について市民に学んでいただいた。 計画どおり実施できたと評価する。 市民協働に関する意識啓発を図り、市民に対しまちづくりへの積極的な参加を促すことが重要である。 市民の環境保全意識は高まったが、実際の活動につながるためには、専門知識を持つ人材の育成を行う必要がある。
2	山、川、海を観光資源として活用	豊かな自然環境を活かして観光客を呼び込む。 ・宮路山のみじまつり ・佐奈川の桜と菜の花ウォーキング ・日本最大級の三河湾臨海緑地 ・河川の散策路整備	商工観光課、道路維持課	継続	継続	継続	継続	宮路山を会場に、観光協会と連携してのみじまつりを開催した。 佐奈川堤を会場に、観光協会と連携して佐奈川・桜と菜の花ウォーキングを開催した。 三河湾臨海緑地やマリナーについて、ホームページやガイドマップなどで紹介した。 佐奈川散策路を整備するため、整備内容などについて調整を進めた。 計画どおり実施できたと評価する。 他の山、川、海の観光資源を、掘り起こして活用することが必要である。 佐奈川散策路については、危険箇所への対応を検討する必要がある。
3	アダプトプログラムによる環境美化と緑化推進	市民等が道路や公園などを清掃したり、花の植え替えや植樹をしたりして、愛情を持ってまちをきれいにすることを支援する。	環境課、道路維持課、公園緑地課	継続	継続	継続	継続	アダプトプログラムの登録促進を図った。 アダプトサイン(看板)を設置したり、ホームページで活動を紹介したりして、広く周知した。 県の補助金を活用し、市民団体に花の苗等を配布した。 計画どおり実施できたと評価する。 公園や街路の樹木のほか、社寺林など市街地の民間緑地の保全も図りたい。 環境美化だけでなく、緑化推進も図ることができる制度となるよう検討する必要がある。 県の補助金制度では、各団体の要望を十分満たせないため、調整が必要である。
4	巨木や名木の愛護啓発	市内の巨木や名木を調査し、愛護啓発や専門家による保全を行い、次代に引き継ぐことでまち豊川市の魅力を高める。	環境課、公園緑地課、生涯学習課	継続	継続	継続	継続	環境学習講座において、巨木や名木の観察等を行い愛護保全の意識啓発を行った。 市内の公園を調査し、写真等の資料を収集した。 県指定天然記念物の樹木について、専門家の指導のもと市民と協働して樹勢回復作業を実施した。 県指定天然記念物「御油のマツ並木」について、樹勢回復を図るとともに補植を行った。 計画どおり実施できたと評価する。 巨木や名木は社寺境内に多く、市が直接保全することは難しい。 市民の愛護につながるため、巨木や名木の効果的なPRを行う必要がある。 御油のマツ並木については、台風による倒木や枯れにより、保存管理計画で示された適切な本数(300本)の維持ができていない。
5	赤塚山公園の充実	県外からの来園者も多く人気を誇る赤塚山公園を、さらに親しまれる憩いの場としていく。 ・施設の改修や維持修繕 ・イベントなどの自主事業 ・ホームページやフェイスブックによる情報発信	公園緑地課	継続	継続	継続	継続	水の広場の改修工事を行った。 アニマニマあるの改修工事に向けて実施設計を行った。 ぎょうランドの老朽化した設備等について取替を行った。 計画どおり実施できたと評価する。 開園後20年が経過しているため、施設の設備等について計画的な改修が必要である。

産業・都市基盤のグロウアップ

番号	取組名	取組概要	主管組織	当初計画(上段)				平成24年度実施内容(上段)
				平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
				進捗状況(下段)				
平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	自己評価・課題(下段)				
1	企業誘致による工業振興	豊川市の魅力をアピールし優良企業を誘致することで、自主財源の確保や雇用の創出を図り、地域を活性化させる。	企業立地推進課	継続	継続	継続	継続	・愛知県と連携し再投資促進補助金や固定資産税相当額を交付する奨励金のほか、進出企業の情報提供報奨制度を用意し、優遇策を充実させ積極的に誘致活動を行った。 ・東京ビッグサイトで開催される国際食品工業展(FOOMA JAPAN)に出展した。 ・木下地区の工業用地について、愛知県企業庁と連携して開発を進めた。 計画どおり実施できたと評価する。 災害リスクが指摘される御津臨海工業用地への新規立地には、優遇制度だけに依らない誘致活動が必要である。 新規工業用地の開発を目指して調査研究を進めているが、課題が多く事業化には時間を要する。
2	まちづくりと連動した商業振興	商店街等が知恵と工夫で賑わいを創出することを支援し、地域に根ざした商業振興を推進する。	商工観光課、都市計画課	継続	継続	継続	継続	やる気満々商店街等事業費補助金により、商店街のにぎわい創出につながる事業に対し支援を行った。 中心市街地の活性化事業について、商店街との合意形成を図りながら取り組んだ。 計画どおり実施できたと評価する。 商業団体等が自立して事業を行えるよう、支援をする必要がある。
3	地産地消、6次産業化による農業振興	豊川産農産物の知名度を上げ消費拡大を図るとともに、6次産業化を進め地域農業を活性化させる。 ・こだわり農産物 ・農商工連携の検討	農務課	継続	継続	継続	継続	・こだわり農産物を始めとした豊川産農産物について、イベントなどでPRした。 ・農政企画協議会によりホームページ・うまよウェブの開設準備を行った。 ・6次産業化や農商工連携のシンポジウムに参加するなど、情報収集に努めた。 計画どおり実施できたと評価する。 こだわり農産物の知名度が低いと、さらなるPR活動が必要である。 6次産業化に取り組んでいる事業者との連携を進めることが必要である。
4	大学と連携したまちづくり	大学の知識や人材を活かして、シティセールスの効果があるまちづくりを進める。 ・交流人口や定住人口の増加 ・商店街の景観整備 ・中心市街地の活性化	企画政策課、都市計画課	継続	継続	継続	継続	交流人口や定住人口の増加について情報を収集した。 中心市街地の活性化を図るため、商店街の景観整備事業を大学の研究室と協働で実施した。 計画どおり実施できたと評価する。 まちづくりの目的に合わせて、大学研究室等の選択が重要になる。
5	とよかわ名物の開発	B-1グランプリ後の新たな観光資源になり得る名物を開発をする。	商工観光課	検討・調整・準備	検討・調整・準備	検討・調整・準備	実施(取組開始)	とよかわ名物を開発するために情報を収集した。 計画どおり実施できたと評価する。 B-1グランプリ後に新たな観光資源が必要である。
6	各駅周辺の散策マップ作成	平成21年度に作成したマップ「駅からはじまる物語」を活用するとともに、より使いやすいマップの作成を検討する。	商工観光課	継続	継続	継続	継続	作成したマップ「駅からはじまる物語」を市内公共施設に設置し、周知を図った。 計画どおり実施できたと評価する。 観光資源と言えるものがない駅もあるため、情報量に差が生じる。また、マップの内容について、随時見直しが必要である。
7	2つの高速道路インターチェンジの優位性をPR	企業誘致やイベント開催などにおいて、交通アクセスの優位性をアピールし、訪れやすいまちを印象付けていく。	企業立地推進課、商工観光課	継続	継続	継続	継続	・首都圏や関西圏で開催される産業展や東主催セミナー等において、物流ネットワーク拠点としての本市の優位性を積極的にPRした。 ・観光協会のホームページにおいて、インターチェンジから観光地へのアクセスを紹介した。 計画どおり実施できたと評価する。 新東名高速道路(新城IC)の開通で利便性が高まることが予想されるが、他市町村への企業進出など本市にとって脅威となる可能性もある。
8	公共機能が充実した複合商業施設プリオのPR	プリオの利便性を高めるとともに、その魅力を積極的に発信し、中心市街地の賑わい創出につなげる。 ・子育て支援センター ・つどいの広場 ・プリオ窓口センター ・ボランティア・市民活動センター ・こぎつね教室 ・市民相談室 ・文化協会 ・観光協会 ・催事場(プリオホール) ・プリオ生涯学習会館	子ども課、市民課、市民協働国際課、人権交通防犯課、文化振興課、商工観光課、都市計画課、生涯学習課	継続	継続	継続	継続	・子育て支援センターでは、来訪者が手軽に子育て情報などを取得できるように情報提供を行った。 ・つどいの広場では、市内外の子育て中の親子が気軽に立ち寄れる場の提供を行った。 ・プリオ窓口センターでは、各種証明に加えて旅券の交付を始めた。 ・とよかわボランティア・市民活動センタープリオを開設し、市民活動の支援を充実させた。 ・外国籍の子どもが日本語を学習するこぎつね教室の活動場所を開設した。 ・市民相談室では、法律相談を始め9種類の相談を受け付けた。 ・桜ヶ丘ミュージアム改修工事に伴う文化協会の移転に向けて準備。 計画どおり実施できたと評価する。 公共機能の利用者により商業施設の利用拡大につながったと思われるが、継続して魅力あるビルづくりを進める必要がある。 センタープリオの認知度は浸透しつつあるが、団体活動室などの施設の利用促進を図る必要がある。 市民相談は内容によって件数のばらつきがあるため、予約制の導入など対応を検討する必要がある。 プリオのさらなる利用促進を図るため、様々な事業を継続して行う必要がある。

アクションプラン取組一覧表

		継続・完了数	実施(取組開始)数	検討・調整・準備数	取組済 / 全取組 (+) / 57	取組率 %
当初計画	平成24年度	34	8	15	42 / 57	73.7
	平成25年度	42	5	10	47 / 57	82.5
	平成26年度	47	4	6	51 / 57	89.5
	平成27年度	51	3	3	54 / 57	94.7
進捗状況 (実績)	平成24年度	34	12	11	46 / 57	80.7
	平成25年度				/ 57	
	平成26年度				/ 57	
	平成27年度				/ 57	